

# 気管切開患者に対する発話・嚥下のマネジメント

講師 中山剛志先生(大久野病院リハビリテーション部 言語聴覚士)

気管切開をされている方の発話や嚥下を保障することは、その方々の生活補償に直結します。本セミナーでは、発話や嚥下の臨床マネジメント手法について3回シリーズで詳しく解説します。ご要望に応え、昨年好評を得たシリーズをアップデートして開講します。

## 第1回 6/3 (金)

### 気管切開に関する 基礎知識

気管切開は、医師が医学的判断によって実施する医療行為で、医学的管理は医師のもとで行われます。しかし、医師以外のメディカルスタッフも気管切開をされている方と接することは多く、適切な行為やケアを実践するためには気管切開に関する基礎的知識を得ておくことが必要です。今回のセミナーでは、してよいこと、してはいけないこと、注意すること、できること、できないことなど、臨床の中で特に重要となる点について解説します。基礎知識を得たい方は必見です。

## 第2回 6/10 (金)

### 気管切開例に対する 摂食嚥下障害の臨床

気管切開をされた方は、ほぼ全員摂食嚥下機能に影響を受けます。喉頭運動の抑制や咽頭喉頭の構造の変化のほか、声門下圧が高まらなくなったり、呼気の流れがかわったり、多くの要因が影響を与えうまく食べられなくなられる方が多くなります。このような方々には相応のリハビリテーションを行いつつ、安全に摂食する方法を獲得するための支援を行います。セミナーでは、具体的な臨床手技や臨床思考など、気管切開をされた方の食支援についてご紹介します。

## 第3回 6/17 (金)

### 気管切開例に対する 発話障害の臨床

気管切開をされた方は声が出せなくなりますが、病状や身体状況によっては気管切開カニューレを工夫し発声が可能となるケースもあります。ただし、発声が可能な場合でも気管切開術を受ける前と同じ発声ではないことが多く、発話への支援やリハビリテーションは、発声できない方、発声できる方いずれにおいても日常のコミュニケーションを保障する重要なポイントとなります。セミナーでは、気管切開をされた方の発話やコミュニケーション支援について、具体的な臨床手技や臨床思考などをご紹介します。

- 時間 19:00~20:15 (予定) オンライン
- 参加費 1講座につき 当研究所会員 1,000円 非会員 3,000円
- 申込方法 右記のQRコードまたは当研究所ホームページからお申込みください。

<https://fc-science.or.jp/guide7.html>

